

【はじめに】

本日は、2022年国民民主党定期大会にご参加いただきありがとうございます。残念ながら今年もオミクロン株の感染拡大で、地方組織の皆さん、党员・サポーターの皆さんにはオンラインで参加いただく形となりました。遠いところからではありますが、お礼申し上げます。また、大変お忙しい中、連合の芳野会長にもわざわざ足を運んでいただきました。心から歓迎感謝申し上げます。

【衆議院選挙】

さて、昨年10月、私たち国民民主党は、初めての衆議院選挙に挑戦しました。結果は、現職6名全員が小選挙区で当選し、比例区でも5つのブロックで議席を獲得しました。合計で選挙前より3議席増やし11議席となりました。ご協力いただいた全国の都道府県連、自治体議員、党员・サポーター、支援者の皆さんに感謝申し上げます。

この結果は、私たち国民民主党が「政策先導型」政党として、常に先手先手で、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとする具体的な政策を提案し、実現につなげてきたこと、そして、現実的で偏らない正直な政治を追求する「改革中道」の姿勢、また、反対のための反対ではなく具体的な解決策を示す「対決より解決」の一貫した姿勢が、有権者の皆様にも評価された結果だと考えています。内外にさまざまな困難を抱える今だからこそ、皆さん、これからのこの姿勢を貫き、停滞する日本を動かしていこうではありませんか。

【選挙対策】

ただし、私たちはまだまだ小さな勢力です。国民民主党が掲げる理念、政策を広げ、存在感を高めていくには、なんといっても、来たる参議院選挙に勝利しなければなりません。衆議院選挙の結果を検証すると、候補者を立てた選挙区では比例票も出ています。逆も真なりです。そこで、参院選に向けて、複数区においては、原則、候補者の擁立を進めていきます。また、1人区においても積極的に候補者の擁立を進め、政策本位で「改革中道」の仲間を増やしていきます。

現在、国政選挙及び地方選挙の候補者発掘のため「来たれ!解決のエキスパート」と題して候補者公募を実施しています。1月末の第一締め切りには131名の応募がありました。3月末を締め切りに現在第2次募集を行っています。また、今後、コロナの感染状況を見極めながら、全国キャラバンを積極的に展開していきます。

【政策活動】

昨年の総選挙では、「積極財政に転換」「給料が上がる経済を実現」「人づくりこそ国づくり」「国民と国土を危機から守る」「正直な政治をつらぬく」、この政策5本柱を公約に掲げ、また、選挙期間中の10月21日には、追加公約として「トリガー条項」の凍結解除によるガソリン価格引き下げを訴えました。

コロナ対策としても、昨年4月の段階から「検査の拡充で『見つける』」「ワクチン接種・経口治療薬の普及で『抑える』」「経済・社会活動との両立によって『動かす』」を柱とする「コロナ三策」も掲げて政策提言を続けてきました。

賃上げの必要性、人への投資、孤独孤立政策、ヤングケアラー支援、そして抗原検査の拡充や経済社会活動との両立など、今、岸田内閣が取り組んでいる政策の多くは、私たちが数ヶ月前、数年前から提案してきた政策です。国民民主党の政策、とりわけ経済政策にはネット上でも高い期待が寄せられました。来たる参議院選挙においても、衆議院選挙で掲げたこうした政策の柱をより精緻化、拡充してワンボイスで訴えて行きます。

【国会活動】

私たち国民民主党の立場は、とにかく「政策本位」です。国民民主党が公約で掲げた政策を実現するため、国会対応や法案提出などにあたっては、「政策本位で」協力できる政党や政治勢力とは与野党を問わず連携・協力していきます。私たちは生活者、働く者のための政策実現にこだわります。

【組織活動】

全国比例の票を積み増すためには、地方組織の強化が欠かせません。本日現在、30の都道府県において県連組織が設立済みですが、参院選の勝利に向け、47都道府県すべてに県連組織を設立することをめざします。

また、昨年10月末時点で党员・サポーター数は5万人を超え、昨年掲げた倍増目標を達成しました。本年度の目標としては7万人超えを目指します。あわせて、先の衆院選の反省を踏まえ、参院選に向けて、党员・サポーターへの情報提供や参画機会の提供を積極的に行っていきたいと思えます。

【広報活動】

コロナ禍で集会開催が難しい中、衆議院選挙においては、我が党のネット戦略が一定の成果を上げたと分析しています。来たる参院選に向けても、YouTube、Instagram、Facebook、Twitterなど、それぞれの媒体の特性を活かしながら、国民民主党の考え方をより多くの国民に届けることができるよう、発信力の強化に取り組みます。特に、若者や女性に届くネット戦略・SNS対策を強化していきます。

【男女共同参画・多様性推進】

ジェンダー後進国を脱却し、多様性社会の実現に向けて取り組むためにも、党として掲げる「女性候補者比率35%」の達成に向け、引き続き取り組みを進めていきます。

【結びに】

最後に、私たち国民民主党の姿勢、取り組みを示すエピソードを紹介して終わりたいと思います。先の衆議院選挙で、大阪の難波高島屋前で矢田わか子さんと街頭演説を行った時のことです。聴衆の中にベビーカーを押す二組の親子がいました。私は、若い子育て世代にも演説聞いてもらって嬉しいなあと思いながら話をしていましたが、演説が終わってその2組の親子が私たちに話しかけてくれました。「私たち、矢田わか子さんと国民民主党にお礼が言いたくて、ここに来たんです。ありがとうございます」と。実は、その方々は、コロナ感染拡大の初期の頃、妊婦として、感染の不安を抱えながら決死の覚悟で満員電車に乗って職場に出勤していた方で、そんな妊婦としての不安をTwitterやダイレクトメールで矢田わか子さんに伝えていた方々だったのです。そして、皆さんもご存じの通り、そうしたネット上の声を拾って、矢田さんが中心となって、当時ほとんど無視されていた妊婦のコロナ対策を前に進めました。妊婦対策といえば矢田わか子、妊婦対策といえば国民民主党と言われるようになったのです。当時、彼女たちとはネット上での匿名のやり取りだったので、どこに住んでいるのか、名前も年齢もわかりませんでした。しかし、妊婦さんだった2人に無事子どもが生まれ、その赤ちゃんと一緒に私たちに一言お礼が言いたいと、わざわざネットで演説会を調べて赤ちゃんと一緒に来てくれたんです。私も感動しました。

あの時、ネットに投稿された小さな不安の声を拾い上げ、具体的な形にしてきたのが矢田わか子さんであり、我々、国民民主党なんです。皆さん、届く人には届いています。いや、私たちの掲げる政策を実現につなげ、届けなくてはならない人がまだまだいっぱいいるのです。

★がんばりましょう。私たちの「改革中道」「対決より解決」の路線は間違っていない。コロナで世の中は変わりました。政治も野党の姿も変わらなくてはなりません。参議院選挙に向け、心を合わせ、力をあわせて取り組んでいきましょう。この決意を皆さんに呼びかけ、私の挨拶といたします。

がんばりましょう！